

ふれあい

2022

9

No.426

牛久愛和総合病院 広報誌



整形外科 新任のご挨拶

整形外科 部長 谷口 浩人



皆様、こんにちは。

この度、牛久愛和総合病院整形外科に、部長として入職させていただきました。谷口と申します。

当病院には今まで非常勤として勤務させていただき、整形外科の中でも、特に膝関節の分野の治療を担当して参りました。常勤として入職致しました。今後は、整形外科全般におきまして、より一層幅広く、治療を行わせていただくこととなります。

部長職を引き継ぐこととなりましたが、この病院で長きに渡り整形外科部長として、そして病院の「顔」として勤められておりました梅原先生の代わりを全うするにはまだまだ非力であり、責任者として同じように立ち振る舞うには、経験不足ではございます。患者様や病院職員の皆様にもご迷惑をおかけし

てしまうこともあるかと思いますが、まずは自分のできることから、一步一步実績を重ねていけるように努めてまいりますと存じます。

当院が掲げます医療の3本柱、救急医療、予防医療、高齢者医療に関して、整形外科としましては、主に後者2者の役割を担って参りました。平均寿命は戦後50歳前後であったところから、現在では女性では80歳後半、男性でも80歳代になるまで延び、今後も延び続けると言われております。寿命が延びる前は顕著化していなかった骨粗鬆症とそれに伴う骨折の治療、怪我也していないのに足腰の痛みを引き起こす腰部脊柱管狭窄症や変形性関節症といった変性疾患に対して、整形外科の果たすべき役割が大きくなっています。また、今後はさらなる高齢化が進んでくるのが社会問題となっており、健康寿命を延ばすためにも、ロコモティブシンドロームの啓蒙活動をしていくことも、整形外科の役割と考えております。骨折された方が、再度骨

折されることを予防するための取り組み（二次性骨折予防継続管理）は、厚生労働省（国）により新たに本年度より診療システムに加わるなどの改訂がなされました。今までも当院では、

骨粗鬆症性骨折をされた方々には、手術、リハビリテーション等により貢献できるように尽力して参りましたが、具体的に今後としましては、骨粗鬆症の評価や治療がなされていないケースもまだまだ多数みられます。現状を鑑み、骨折された方の骨粗鬆症の評価、治療（薬剤）の導入、栄養や生活についての指導など、今まで以上に骨折後のケアを行なっていくことにより、より一層の予防医療としての役割も果たせるように、努力して参りたいと存じます。

何よりも、思いやりの気持ちを持って、地域の皆様への貢献を行うことを使命とする志を礎として、医療に邁進していく所存でございます。至らぬところはまだまだございますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



「D」判定。さてどうします？

総合健診センター部長 林 達弘



健康診断（人間ドックや会社での健診、がん検診など）は、いわば健康程度・日常生活を判定しランク付けするものです。

多くの判定やランク付けでは、Aを

最上としてB↓C↓Dといくに従い低評価になるでしょう。「D」判定というのはどういう意味でしょうか。受験の模試であれば「合格の可能性はほぼなし」、大学の講義であれば「単位落とした」、会社の格付けならば「三流」、製品ならば「粗悪品」などといったところでしょうか？D判定を受けたらどうするでしょうか？受験ならば必死に勉強し、会社や製品ならば改良・改善を図るでしょう（大学の単位は諦めるか、教授にゴマをする？）。放置すれば不合格や業績不振・倒産がまっているでしょう。もし安全点検でD判定ならば、ただちに操業停止&改善を図るのではないのでしょうか。健康診断のD判定はどうでしょう？

健康診断にはA・B・C・D・Eの判定があり、A：異常なし、B：軽度異常だが問題なし、C：異常あり注意&要改

善、D：要精密検査・要治療。やはりAからDに行くに従い悪くなります。なお、E判定は「すでに治療中」であり、悪い結果の場合も良い結果の場合もあります。

健診でD判定を受けた場合、先ほどの考えでいけば当然に対策をとる、つまり専門機関を受診するとなるわけですが、そうならない方が多数いらっしゃいます。肥満（特に内臓脂肪型肥満）・高血糖・高血圧・高脂血症・肝機能障害、有名なメタボリックシンドローム。これらは徐々に進行し、糖尿病・脳血管障害・虚血性心疾患を引き起こし、人工透析や認知症や脳卒中や心不全となっていく。「毎年指摘されているけど悪くなっていかない」「特に問題なく日々過ごしているから大丈夫」という方がいらつしやいます。いえいえ、少しずつ健康の土台は蝕まれていきます。やがて支えきれなくなつて建物が崩れる、つまりはつきりと「病

気」になります。健診を受けただけでは健康になれません。結果について対応をすることが

必要です。「治療や精密検査が必要（D判定）」であれば各専門科外来を受診することはもちろん、「日常生活で注意すべき点や改善すべき点（C判定）」があれば生活習慣を改善することが重要です。

コロナウイルス（COVID-19）が世界に蔓延し、日本でも2年半以上に渡り生活に制限がかかっています。人間ドックを受診された方で前年度にD判定があるのに「D判定だったけど、コロナが怖くて病院に行っていない」という方が多くいらっしゃいます。でも、病気の進行は待ってくれません。D判定ならば専門外来受診を、C判定ならば生活改善などの対応策を取って、次回はB判定以上を目指してください。



Dr. 趣味リレー

整形外科医 部長 谷口 浩人

別の広報には「無趣味なので、趣味を御指南していただけます方を募集中」と書きました。普段、何かに興じることがない人間でございませう。これは、仕事と余暇のモード切替が、不得手であることも手伝っておりませう。趣味らしい話を強いて挙げますと、とある年に、前の職場での忘年会の余興の演奏を催す機会に、お声をかけて頂いたことでしょうか。昔バンドマンだったので、昔取った杵柄？を、酷いものですが披露させていただきました。今後そんな機会も増えていけば、と思つていた矢先に、年が明けるとコロナ禍となり、宴会や会合に制約がかかる世の中となつてしまいました。本当に残念ですが、その時の演奏で一緒にさせていただいた産婦の先生は、音楽活動もプロとして活躍されておられる方です。羨ましい生き方の一つですが、今回はその彼女のアルバムをご紹介させていただきます。素敵です。是非ともご一聴ください。

Eriko Oita, "Starry Night"

春秋園だより

段々と涼しくなる日が増えてきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

利用者様は、体操をしたり歌をうたったり、施設内を歩いたり元気に過ごしていらつしやいます。また、なかにはテレビを見ながら利用者様同士盛りあがる様子もみられ、楽しく過ごされています。

今日は、先日行いました調理レクリエーションの様子をご紹介します。今回は利用者様と職員で協力しながら「けんちんうどん」を作りました。材料は新鮮な大根、ネギ、椎茸、里芋、ごぼうや人参、豆腐などです。



利用者様は手分けして椎茸の入れ物を開けたり、ピーラーや包丁を使い、野菜の皮をむいたりと準備を行い

ました。手早くネギを切り、ごぼうを水にさらすなどのひと手間も忘れずに行う姿は、経験を重ねているからこそだと感じました。

利用者様は疲れも見せず、「次はなにをやりましょうか」「何を切りましょうか」と積極的に参加して下さり、職員は大慌てで作業を進めていきました。

次は調理です。切った野菜を炒め、さらにだしを加え煮立てはじめると、食欲をそそるおいしい香りがたちこめます。利用者様も職員も、早くできないかなど、はやる思いでワクワクしながら作業を進めます。お肉、うどんの順番に煮込んで…さあ完成です！

完成した料理は、お昼に召し上がっていただきました。職員も完成した料理を分けていただきましたが、とても美味しかったです。

今後機会をみて、調理レクリエーションをできたらなと思っております。また広報活動等でご報告できることを楽しみにしております。

(春秋園入所スタッフ一同)

部署紹介

リハビリセンター(作業療法士)

リハビリセンター 副科長 夏加 孝明

今回は作業療法士についてご紹介させていただきます。

リハビリには理学療法、作業療法、言語聴覚と3部門があります。その中で作業療法士は「作業」を通してリハビリを行う専門職です。「作業」とは食べたり入浴したり、家事や仕事、趣味活動など人が行うすべての活動を意味しています。病気やけが、認知症などでその人らしい生活が行えなくなった時に「作業」その人の生活に焦点を合わせて様々な活動に参加できるようにサポートを行うことが作業療法士の主な役割となります。

作業療法の対象となる年代は一言で言えばすべての年代となります。なぜならば人は生まれてからずっと「作業」を行っており、生涯を通して自分らしい生活を送っているからです。

作業療法の一例を上げると、脳卒中を患い右の手が動かしづらい方が自分で食事したいと希望された場合に作業療法士は何が原因で食事が食べられないかを分析します。「右手が動かしづらいから」「脳の障害で食器が置かれている場所がわからない」「そもそも座ってられない」などその人それぞれ

れに原因が異なります。それらを分析した上で、右手が問題であれば麻痺を改善する方法を模索し、それも難しければ利き手を交換する場合もあります。

このように作業療法士は「作業」その人の生活をサポートする専門職です。現在当院には22名の作業療法士が在籍しております。スタッフ各々は患者様がその人らしい作業を取り戻せるように、または再構築できるように日々知識や技術を磨いております。作業療法士は皆様の生活のお役に立てるように患者様の想いに寄り添いながら心と身体のサポートをさせていただきます。

入職者

8月1日付

■看護部

看護補助 大島 千夏

早く業務に慣れ、患者さんや職員の方々のお役に立てるよう、日々努めていきたいです。

8月16日付

■経理課

事務 館野 百合

一日も早く業務を覚え、皆様の流れに乗れるよう努めます。宜しくお願い致します。

■春秋園

■通所リハビリ

介護福祉士 鶴岡 正憲

去年少年期からの夢であった大型バイクの免許を取得しました。諦めなければ夢が叶う事を体験しました。

春秋園紹介

主任 村上 敦子

うしく総合介護サービスについて

うしく総合介護サービスは、春秋園1階事務所内にある居宅介護支援事業所です。現在5名の介護支援専門員（ケアマネジャー）で、住み慣れたご自宅で、要介護の認定を受けられた利用者様・ご家族様が安心して生活できるように、適切な介護サービスの相談や調整を行っています。また、地域や医療機関、各サービス事業所との連携を図りながら、ご自宅での生活を支援させていただきます。

「デイケアやデイサービスに通って運動をしたい。」「自宅で風呂に入るのが大変になってきた。」「食事の用意が大変になってきて、配達してくれる業者さんを知りたい。」など様々な相談をいただいています。些細なことでも結構ですので、お気軽にご相談ください。



編集だより

栗や柿、梨、さつまいも、新米など、茨城には魅力的な秋の味覚が沢山ありますね。夏バテ気味の体調を整え、実りの秋をぜひ楽しみましょう。
(E・N)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様へ最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科

【専門外来】

内科 (禁煙外来)
整形外科 (股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)
小児科 (小児循環器、小児心理、小児免疫)
皮膚科 (レーザー外来)
外科 (下肢静脈瘤外来)
ストーマ外来
そけいヘルニア専門外来
透析外来
内視鏡検査
検診検査 (乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

《関連施設》

総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラクス Tel 029-874-8791
人工透析センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

